

コロナで考え直す平和の意味

天保山中学校 二年 迫田 れんげ

いま日本中で、いえ世界中で新型コロナウイルスの感染が広がっています。世界の感染者数は、いまや千六百万人を超え、死者も六百六十万人を超えました。日本でも三万二千人を超える感染者と千人を超える死者が出ています。

日本では、三月以降の感染者の激増によって、政府から緊急事態宣言が発表され、私達の鹿児島も大きな影響を受けました。そしてまた、いったんは収束したかに思えた感染者が再び増加しています。

私は、広辞苑で平和の意味を調べたことがあります。広辞苑にはこう書いてありました。

①おだやかで変わりのないこと

②戦争がなく安穏なこと

②についてはそうだなと思いました。①についてはよく分かりませんでした。戦争がなければ、それは確実に平和なことだと思っただけです。

世界中には、いまでも戦争によって大切な人や大事な物を失って苦しんでいる人達が大勢います。テレビのニュースを見ると、アメリカと中国の関係が悪くなって、新たな戦争が起こりそうで恐くなります。

しかし、いま新型コロナウイルスが日本や世界中で広がっている中で、私の平和に対する考え方が少し変わってきました。

新型コロナウイルスは戦争ではありません。感染症という病気です。その病気がいま世界中の人々を不安にしています。いままで当たり前だと思っていたごく普通の日常が奪われてしまいました。

楽しい学校生活が休みになったこともありました。友達とおしゃべりしたりすることもあまりできなくなりました。どこに行くにも

マスクをして、ほかの人達とは近づかないようにしなければなりません。

つい最近まで当たり前前にできていたことができなくなりました。家族で飲食店に行っても、向かい合わせで座ることはできません。

向かい合わせで座っても、間が透明なアクリル板でしきられています。これはもう平和ではない、平和ではなくなっていると感じました。

広辞苑で見た、おだやかで変わりのないことが、いまや失われていると思えました。つまり、戦争がなくても平和であるとは言えないのだということが、この新型コロナウイルスの感染が広がる中で分かったのです。

日本は戦争がなくて平和な国です。私達はその平和な日本でおだやかな日常を過ごしていました。

しかし今回の新型コロナウイルスによって、戦争がないというだけでではなく、おだやかで変わりのない日常を過ごすために、何が必要なのか、改めて考えさせられました。

これ以上、新型コロナウイルスの感染を広げないために、私達はいままで以上に、自分以外の人のことを考えなければならぬと思えました。

自分が感染しないために、ほかの人に感染させないために、手を洗ったり消毒したりして、自分のためだけではなく自分以外の人のことも考えて行動することが必要なのです。

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会全体で取り組まないといけない問題ですが、私達一人一人が、ほかの人のことも考えて行動することが必要だし、それが結局、自分の日常を平和にすることにつながるのだということが分かりました。

そして、新型コロナウイルスの感染対策に限らず、ほかの人のことを考えることは、とても大切なことなのではないかということに気がつきました。